

足立租税教育推進協議会会長賞

「税金のバトン」

足立区立 六月中学校

三年 吉岡 奏介

「ここは、誰が作ったのだろう…」そんな疑問が浮かんだのは僕がよく利用する陸上競技場だ。僕は陸上競技が大好きでよく利用するのだが、走路や観客席等の修理、スターティングブロックやハードルなどの備品や管理などのお金のことがふと気になった。僕たちが利用するために払っている利用料だけでは足りるはずがない。では、なぜみんなが気持ちよく使えるのかを考えてみようと思う。

まず、誰が作ったのか、これは間違いなく工事業者だ。では、その工事業者は誰からお金をもらい仕事をしたのか……そこに使われていたのが税金であつた。しかし、そこでまた疑問が生まれる。その税金はどこから来たのか……、税金にはいろいろな種類がある。僕の身近なところにも税金が関係している場所やことがたくさんあつたのだ。大好きな陸上競技と出会った学校も税金。その学校に通うための通学路や信号も税金。勉強をするための教科書も税金……、僕が考えつくだけでもきりが無いほど税金が関係していた。また、聞いたことのない税もたくさんある。きつと、僕が知らないところでたくさん税金が使われ、みんなの役に立っているのだと思う。税金はいろいろなところで使われるだけでなく、いろいろな形で集められているのだ。

身近にあり、役に立っている税金を払ってくれているのは僕た

ちの人生の先輩である。一生懸命働いて払ってくれているのだ。その人たちも人生の先輩からの恩恵を受け、税金のバトンを受け取ったのだ。僕が大切な仲間と走るリレーと同じであると思った。次の人へバトンを渡すために一生懸命走りぬき、次の人へとつなげる。税金もリレーも一人の力ではどうにもならない。みんながつながってこそ、活かされ、恩恵につながるのだと思う。

陸上競技場では、走る前と走った後に頭を下げる。また入るときは「お願いします」と言ってから門をくぐり、帰るときは「ありがとうございます」と言ってから門を出る。今まではみんながやっているからと何気なくやっていた。しかし、僕が陸上競技場を楽しく、気持ちよく使えるのは税金のおかげだと知った。頭を下げたり、「ありがとう」を伝えたりする意味が分かったので、しっかりと感謝の気持ちを込めて丁寧にしていきたいと思う。

僕たちが生きていくうえで、税金はなくてはならないものである。安心で安全な生活を送りながら、好きなことが出来ることはとても幸せなことであると感じる。だからこそ、様々なことへの感謝を忘れてはいけない。

これから僕は、陸上競技を続けていきたい。走り続け、大人になったら人生の先輩から税金のバトンを受け取り、次の世代へつなげていきたいと思う。